



# 深田久弥 山の文化館だより

令和5年  
春号

深田久弥 山の文化館  
〒921-0067  
石川県加賀市大聖寺春場町十八  
TEL 〇七六二 七二一三三ー一三  
FAX 〇七六二 七二一三一ー八一

## 深田久弥と日本百名山 俳句募集始まる

本年秋に開催される「いしかわ百万石文化祭」の一環として、深田久弥生誕百二十年記念「深田久弥と日本百名山」と題する事業が行われる。この中で、「ふるさととの山」という兼題で、俳句を募集します。

『日本百名山』について、深田久弥を知る人は多いが、俳句についてはさほど知られていない。深田久弥は第一高等学校在学中、同級生の柴生田稔さんに誘われて本格的に俳句を始めていく。しかし、大学入学後は小説に身を投入るようになり、俳句には向き合うことがなかった。その後、鎌倉時代に文士仲間などと荏草会を結成し俳句を再開した。その会の席上、永井龍男の発案で「九山」という俳号に決定した。皆から「久さん」と呼ばれていたことと、山好きであることから来たものである。この俳号は、後に自宅の「本小屋」を「九山山房」と名づけた如く、お気に入りだったようである。翌年、鎌倉句会に参加し、大勢の参加者の中

から高浜虚子の選句として自分の句が二句も読まれたことで、さらに俳句熱は高まった。しかし、句会などに参加していない時期もあるが、俳句は続けていた。亡くなる前日にも、新府城址で何句かの句を読んでいる。深田久弥の句は、没後志げ子夫人によって「九山句集」として纏められた。

俳句募集は、一般の部と小・中学生の部に分かれ、一人二句までとなっている。応募期間は、五月一日から七月三十一日までである。詳しくは、深田久弥山の文化館ホームページをご覧ください。

<https://yamanojunkakan.com>



### 1冊1冊

『世界百名山』を取り上げてみた。深田久弥の『世界百名山』は残念ながら四十一座で終わっている。この本の経緯については、本人が錯誤であるという如く、海外旅行中に雑誌に予告が出してしまった。予告をいつわるわけにはいかないからと『岳人』に連載が始まった。はしがきに「成功するかどうか、おぼつかない。することもあり得よう、とは一縷の希みである。」と書いているが、茅ヶ岳での急逝により、その希みは叶わなかった。

その望みを叶えたいと考えている人がいる。久弥と交流のあった何人かの後輩の方達である。その中の一人、黒田洋一郎さんが先頃深田久弥山の文化館を訪ねて下さった。黒田さんは、科学雑誌『ミクロスコピア』（季刊）に、平成二年十一月から「私の世界百名山」を連載している。何冊かは資料文献室に収蔵しているが、インターネットで読むこともできる。



## 久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆

その21

書込みのある地形図の一覧表を見ていて、「秦野・丹沢山塊」が目にとまった。これは、五万分の一地形図の「秦野」と「上野原」の南半分をつなげたもので、それぞれ地勢図「東京」の十六番と十五番である。

広げてみると多くの赤鉛筆のラインと書き込みがあった。大倉尾根と塔ヶ嶽と丹澤山と蛭ヶ嶽、蛭ヶ嶽と熊木と山神峠と玄倉、塔ヶ嶽と熊木と雨山峠とヤドリギ沢、それに、青野原村と焼山とヒメツギ等には赤鉛筆のラインが、そして、鍋割山と塔ヶ嶽と新大日と鳥尾山と三ノ塔と岳の台と大山の稜線と、新大日、三ノ塔間の支尾根に青い線が引かれている。また、塔ヶ嶽東面の谷にはビッシリと谷の名前が書き込まれている。これらの谷の名前は、現在の地形図にはほとんど記載されていない。また、「札掛」「犬越路」の地名に赤い丸印がある。

これらの書込みに関する深田久弥の作品には『山頂山麓』の「尊仏山荘」がある。この文章の初出は、『山と溪谷』昭和十六年五月号に掲載された「山岳雑記帳(六) 丹澤ところどころ 尊仏小屋」であった。『山頂山麓』の「尊仏山荘」では削除されている前文には、「十五年前の事だから委しいことは忘れてしまったが」との書き出しで、青野原から焼山に

登り姫次まで行ったが、天候が悪くなり心細く、縦走をあきらめて引き返したことが書かれている。これは、『人物書誌大系・深田久弥』の年譜に「大正十五年丹沢縦走」という表記があるがこれに当たる山行のようであり、赤鉛筆のラインと一致する。「その後数年たつて丹沢へ局部的に二、三度行ったが」と書いているが、年譜の中に山行記録は見当たらない。「尊仏山荘」の文中に書かれているのは昭和十六年正月の山行であり、大倉尾根と塔ヶ嶽と熊木と雨山峠とヤドリギ沢のラインそのものである。この塔ノ岳登山の翌月と翌々月に、犬越路越え、雁坂峠から明神峠の稜線歩きをしている。また、『日本百名山』には蛭ヶ嶽に登ったとも書いてある。この範囲の広さが地形図に「丹澤山塊」と表記してある所以であろう。



### 間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会はリモートで二会場形式にして実施しています。  
(聴講無料)

午後一時半より三時  
深田久弥山の文化館聴山房他

■四月二十三日(日)

演題…もう一つの白山

講師…日谷昌保氏(飛鳥建設)

■五月二十一日(日)

演題…稲坂謙三と深田久弥

講師…稲坂 暢氏(医師)

■六月十八日(日)

演題…白山手取川ジオパークとは

講師…日比野 剛氏

(白山ジオパーク推進協議会)

### 読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。  
(参加無料)

四月二十八日(金)

『日本百名山』より「大菩薩岳」

五月二十六日(金)

『日本百名山』より「薬師岳」

六月二十三日(金)

『日本百名山』より「開聞岳」

●場所 深田久弥山の文化館

●時間 午後一時半より三時

\*詳細はホームページをご覧ください

### 編集後記

例年になく早い春の訪れでした。山の雪も、降る量が少なかったせいか、とても少なくなっているそうです。下界から見る近山は芽吹きで、春色です。

少し遅くなりましたが、春号をお届けします。

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>